



きょうと福祉倶楽部の労務関係を担って頂いている社会保険労務士の楠木さん。
原発事故で帰れぬ町となった被災地を訪れました。その様子を紹介していただきました。

悪魔の核発電

楠木 仁史

東日本大震災から10年以上が経過した。テレビでも新聞でも、震災のことは全く報道されなくなった。被災地は既に復興し、福島第一原子力発電所の廃炉作業は完了したと思いますか？線量計を持って、福島第一原発20キロ圏内に行ってきました。これから毎年訪問しようと思っています。

印象は、一言でいえば「見ると聞くとでは大違い」ということです。仙台から南下し、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、富岡町の順に訪れました。地元の方、何人かともお話ししましたが、皆一様に「我々は棄てられた」、「我々の街は棄てられた街」、「我々の故郷は棄てられた」と仰っていました。「棄てられた」という言葉の響きが何とも形容しがたく、深く心を打たれました。

漁港はきれいに整備され、すぐにでも漁業を再開できそうですが、漁港の整備が完了したのは、震災から10年の月が経った今年になってからのことです。この10年間で、地元の若い漁師の多くは、すでに故郷を離れ、新たな土地で新しい生活を始めています。「漁港の整備ができたから、早く戻って漁業を始めろ！」等と国が言っても、今更漁業など再開できるわけがない。この10年の生活を捨てて更に新しい生活を！なんて無茶苦茶な話です。



実際のところ、新しい生活を始められなかった年輩の漁師しか漁業などできないのです。震災時既に高齢であったのに、この10年で更に歳老いた漁師しか残っていません。おまけに今回の汚染水海洋放出です。たとえ獲れたとしても、この海の海産物を誰が買うのでしょうか？「よしっ！漁港の整備は完了した！国ができることはここまでだ。あとは自分たちで稼いで生活してくれ！よって今まで行ってきた生活費の援助は打ち切るっ！」というのが、この国の方策です。「棄てられた」の意味はこういうことなのです。

JR 双葉町の綺麗に再構築された駅舎を背景にして、先の東京オリンピックの聖火ランナーが走りました。しかしその駅舎の向かい側、カメラが捉えない光景は瓦礫の山なのです。この国のマスコミの報道の99.9%は嘘であるか、もしくは真実を正確には伝えていません。

今一度考えてください。核発電って、これほどまでの犠牲を払ってでも行わなければならないものですか？我々が居住する京都府乙訓地方は、原発銀座といわれる福井県嶺南の若狭高浜地域からほんの100kmも離れていないのです。



有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイソール101号
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com